呼吸器のエキスパートを目指すなら

～内科専門研修の案内～

独立行政法人　国立病院機構
東京病院
National Hospital Organization
Tokyo National Hospital

院長　松井 弘稔

好きな言葉は、

「速く行くなら一人で行きなさい、
遠くへ行くならみんなと行きなさい。」

東京病院ではどちらの道も選べます。

Ver2.1　　2023.4.1

国立病院機構東京病院内科専門研修プログラム

東京病院における研修のメリット

プログラム統括責任者

副院長 **田村 厚久**

1. 国内最大規模の呼吸器病床数

一般呼吸器病床を約200床¶有しており、他院では経験できない多種多様な疾患の検査、治療を経験することができます。

2. 結核診療を十分に経験できる

結核病棟も首都圏最大の100床あり、専門的な対応が会得できます。非結核性抗酸菌症の症例も豊富です。

3. エキスパートが揃い踏み

肺感染症、肺癌、びまん性肺疾患、COPD、気管支喘息、肺循環・喀血など、各々の領域や部門のエキスパート医†による指導を受けることができます。各種カンファレンス、レクチャーも充実しています。

4. 多職種チーム活動も活発

外科手術や放射線治療、術前術後化療、緩和医療等、呼吸器疾患へのシームレスな診療を経験でき、様々な多職種チーム活動に参加することも可能です。

5. 開放的な運営がモットー

常勤医の出身大学は国公立、私立を問わず、全国に広がっており、伝統的に開放的な運営をしています。専攻医も様々な大学や病院から来ています。

6. 呼吸器以外の専門医を目指す専攻医も歓迎

これまで消化器科や循環器科などを目指す専攻医の呼吸器研修もお引き受けしてきました。内科専門医の領域を問わず、当院での呼吸器研修は将来、必ず役に立つと思います。

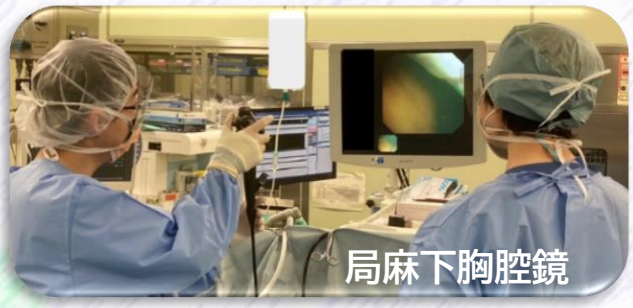
7. オン・オフがはっきりした当直制

当直体制では必ず常勤呼吸器内科医が当直に入っています。

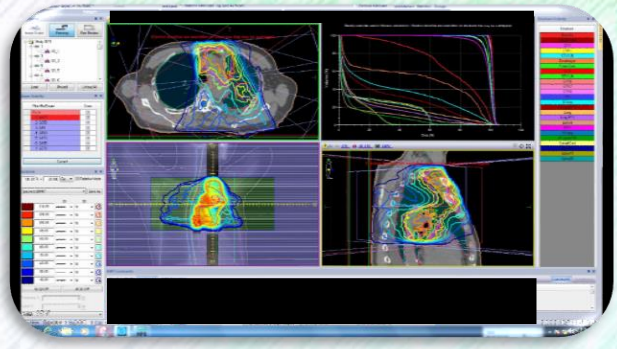
¶:COVID-19対応中は約150床体制、†:2023年4月の常勤呼吸器専門医数21名

呼吸器週間予定表

	AM 8:15～	AM 9:00～	PM	PM 5:00～
月				一般病棟新患 conf.
火	肺癌conf. （外科・放射線科合同）	気管支鏡	局麻下胸腔鏡	
水	レジデント講義	気管支鏡	抗酸菌症寺子屋 難治症例検討会 気管支動脈塞栓術	
木	結核conf.	気管支鏡	結核病棟新患conf. 右心カテーテル	第2木曜 呼吸器病理 conf.
金	抄読会	局麻下胸腔鏡	気管支動脈塞栓術	



胸腔鏡下手術（呼吸器外科）



IMRT線量分布図（放射線科）

プログラム研修委員長からのメッセージ

呼吸器センター部長
守尾 嘉晃

肺はひとの健康を映し出す『鏡』とも考えられる、と私はかつて先輩医師に教わりました。肺は、気道を介して外界に接し体循環から還流した血液全てを受けとめる特殊な臓器です。それ故、肺は環境曝露や全身状態の影響を反映して、ひとの健康を映し出す『鏡』と考えられています。「健康を映し出す『鏡』」である呼吸器疾患の診療技量の修得は、医師の中でもジェネラリストとして全人的に診療できるアドバンテージになると思います。内科専門研修の一時期を東京病院で過ごすメリットは、呼吸器疾患の診療に自信が持てるようになることです。東京病院では、結核診療のメッカであった歴史的な背景から、以前より肺結核症はもとより、肺非結核性抗酸菌症や肺アスペルギルス症などの慢性肺感染症の豊富な診療経験ができます。また呼吸器疾患には、気管-気管支-肺胞にかけて、感染症、腫瘍、炎症性疾患、循環障害、アレルギー性疾患、代謝性疾患、胸膜疾患、出血や外傷などの多様な疾患がありますが、肺癌、びまん性肺疾患/難治症例、結核/非結核性抗酸菌症などの多数のカンファレンスがあるので、多様な呼吸器疾患に対する診断/治療管理のマネージメントが自然に身についてきます。カンファレンスで受け持ち以外の症例も学ぶことができて、呼吸器診療の経験値が深まります。さらに気管支鏡、胸腔鏡、気管支動脈塞栓術、CTガイド下生検、右心カテーテル検査などの診断/治療ツールが確立されているので、申し分なく診断技量の習得もできます。一方でいろいろな病院から多数（10名ほど）の呼吸器内科志望の研修医が来ていて、常勤の呼吸器内科医が20名ほどいるので、研修期間中に自分の立ち位置や得意/不得意を捉えつつ、将来的に呼吸器診療のどの分野に自分の専門性を見出すこともできると思います。また呼吸器内科医以外の先生方、例えば循環器内科医の先生方も東京病院で研修されています。呼吸器疾患に対する診断/治療管理のマネージメントの修得は、他科の先生の専門診療に活かされて、ジェネラリストとして全人的な診療に繋がります。他方、日本呼吸器学会をはじめ国内外の呼吸器臨床の研究会では、有数な研究発表を展開しています。以上のように当院は、呼吸器臨床医の研鑽を積む場として申し分なく恵まれた環境です。また東京都から、平成23年、地域災害拠点病院、平成28年、地域医療支援病院として承認されています。呼吸器疾患の全般的な診療以外にも地域医療の向上に努めております。実り多い呼吸器臨床の研修を目指す先生方は、是非、当院の門戸を叩いてください。一緒に呼吸器臨床医の研鑽を積んでいきましょう。お待ちしています。

臨床研修センター長からのメッセージ

地域医療連携部長
佐々木 結花

国立病院機構東京病院は、長い歴史の積み重ねと新しい力が結集した病院です。沿革は旧く、1962年1月4日に 国立東京療養所と国立療養所清瀬病院を統合し国立療養所東京病院となり、結核・呼吸器疾患の中核病院として業績を重ねてきました。結核患者減少により病院機能を多角化し、1977年、難病を中心とした神経筋疾患を診療する難病病棟開設、1981年、脳血管障害へのリハビリ病棟開設、1984年、肝胆膵を中心とした消化器疾患診療開始、1992年には臨床研究の要となる臨床研究部がスタートし、呼吸器、呼吸器感染症だけではなく、総合リハビリテーションについても臨床データに基づいた研究室が設けられました。その後、エイズ診療の先駆けとなり、1995年、重症感染症病棟が開設され、国立病院の使命である政策医療と、幅広い呼吸器の診療、地域医療を請け負う一般診療を行う地域医療の要もかね拠点病院と称されました。その後国立病院機構に移管され今に至っています。呼吸器センターは2010年に、開設され,呼吸器内科部門として、感染症・腫瘍・びまん性肺疾患・COPD・肺循環／喀血の5部門の診療体制で運営され、2008年に開設したアレルギー科、緩和ケアも併設され、呼吸器の全領域を診療しています。

当院の特徴は、多くの疾患を経験できることですが、**それだけではつまらないのではないかと思っています。**その疾患についての**奥行を皆様知りたくはありませんか？**エキスパートオピニオンを聞き、エビデンスを学ぶことができる場が与えられることが、研修中には大切だと常々考えています。当センターは呼吸器内科医が数多く所属しており、エキスパートがおり、討議・討論ができます。討議・討論は、自身が考え判断する力を養うことができます。その重要性は計り知れません。それを研修の時代からできる、ということは他の施設にはない当院における研修の強みです。加えて、呼吸器の様々な検査手技、例えばinterventionを含めた気管支鏡検査、気管支動脈造影及び塞栓術、右心カテーテル検査など、一般病院で紹介するような病状に行う検査手技を、実際に、かつ、間近で学ぶことも可能です。学会活動も多岐にわたります。発表経験だけでなく、論文作成の応援もしています。英文投稿もお世話します。私が強調したい事はもう一つあります。当院は何よりも、医師間の風通しがよく、和気あいあいとした雰囲気であること、指導医との間に障壁がないこと、「おはようございます」から始まる素敵な光景が当科にはあること。研修するうえで大きな魅力だと思います。ぜひ、当院で呼吸器診療を学んでみませんか。
私は皆様をサポートします。

指導医からのメッセージ

川島 正裕

内科医として呼吸器疾患ほど幅の広さを感じる領域はありません。呼吸を介して常に外界と繋がっている臓器であるがゆえに発症する多彩な感染症、アレルギー疾患、閉塞性肺疾患ならび職業性肺疾患、ここ10数年で遺伝子異常や癌免疫機序に基づく特異的治療が導入され飛躍的進歩を遂げる肺癌、体循環の全血流が必ず肺循環というフィルターを通るという必然から急激にあるいは緩徐進行性に生命に大きな影響を与える肺循環障害、自己免疫や原因不明の炎症性病態とその修復過程の異常（線維化病態）を主体とする間質性肺疾患、更にあらゆる呼吸器疾患に伴う急性・慢性呼吸不全と呼吸管理、近年では癌領域のみならず慢性呼吸器疾患の終末期にも検討の幅が広がりつつある緩和医療等々、主要な呼吸器病態と管理に関して、それぞれがまた広大な拡がりを持っていることがわかると思います。
大学病院の呼吸器内科であってもすべてのサブスペシャリティに対して専門家を揃えることは困難です。当院呼吸器内科は肺病（結核の古い呼称）を専門とする国立療養所から続く歴史とそれに憧れをもち引き寄せられた呼吸器専門医の大所帯ゆえ、ほぼ全ての呼吸器疾患領域に対し専門家に相談しながら診療や研究を行うことが可能です。呼吸器内科医なのにIVRをやっている希少な喀血専門家である私が言うくらいなので、間違いはありません（笑）。多種多様な呼吸器疾患の患者さんと呼吸器専門医からの学びを考えている「**あなた**」、ぜひ東京病院での研修をお勧めします。

鈴川 真穂

国立病院機構東京病院にはとても長い歴史があり、前身が清瀬病院・東京療養所だったこともあって国内では他に類を見ないほどの呼吸器疾患の豊富な診療実績があり、呼吸器疾患に関する膨大なデータ、資料が保管されています。国立病院機構の理念には、「国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のためにたゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のものとに患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます」とあります。東京病院では呼吸器疾患に対する豊富な診療実績を礎とした呼吸器疾患に関する臨床・基礎研究も積極的に行なっています。若手医師が、日々の診療で生じるリサーチクエスションに対し研究を立案するところから、計画、推進、総括、公表まで、経験豊富な指導医によるきめ細やか指導を受けながら進めることが可能です。
東京病院には臨床研究部が設置されており、臨床研究専任のスタッフがいます。研究テーマは、呼吸器感染症、抗酸菌症、悪性腫瘍、びまん性肺疾患、閉塞性肺疾患、肺循環、アレルギー疾患と幅広く、各分野の専門上級医から丁寧な指導を受けることができます。このように、臨床の傍で研究について学べることも、当院の大きな魅力の一つになっています。ここで学んだ研究手法を活かし、博士号を取得したり、留学につながった先輩方も少なくありません。診療に加えて研究にも熱心な指導医が、先生方の参加を心よりお待ちしています。

専攻医からのメッセージ

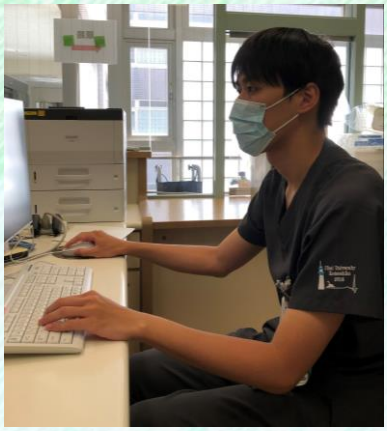
小佐井 惟吹

私は当院の後期研修プログラムに所属したのち、現在呼吸器内科専攻医として当院で研鑽を積んでおります。当院の内科研修プログラムは1年目の半年間と3年目の1年間呼吸器内科に所属し、1年目の残り半年間は消化器内科・循環器内科・神経内科などで研修を行います。2年目は関連病院での研修となりますが、多摩総合医療センター、公立昭和病院などと連携しており急性期の経験も十分得られます。呼吸器専門研修との連動も可能であり専門医を早めに取りたいという希望も叶えられる環境です。当院では胸腔鏡、BAE、右心カテーテル検査など他院では他科に依頼するような手技も呼吸器内科主体で行っており、助手として参加することもできます。すべての科が揃っているわけではないため、合併症に関してはある程度自分で対応しなければなりませんが、一般内科としてのスキルも自然と上がっていく環境でもあります。呼吸器を学びつつ全身を診ることができる医師になりたいという方から特定の分野を重点的に学びたいという希望まで様々なニーズにこたえられるのが当院の最大の強みです。充実した呼吸器内科研修を行いたい方は一度足を運んでいただけると嬉しいです。（2023年4月、当院呼吸器連動専門研修3年目研修中）

安西 七海

東邦大学医療センター大森病院に入局しレジデント3年目で連携病院である東京病院呼吸器内科にて昨年の4月から1年間研修いたしました。東京病院といえば昔から結核病棟があり、コロナ禍の現在も都内で活動性肺結核症を診療している病院ですが、呼吸器の各専門分野の先生方が充実しており、ＮＴＭやアスペルギルスといった感染症やびまん性肺疾患、肺がんや肺高血圧症治療、それに関わる気管支鏡検査、胸腔鏡検査、気管支動脈塞栓術、右心カテーテル検査といった数多くの検査手技を行うことができました。毎週病棟・結核・複雑症例・病理カンファレンスで自分が診療している以外の患者さんについても学び、指導熱心な先生方から定期的に勉強会を実施していただき大変充実した研修生活を送れました。呼吸器疾患に興味がある先生方は是非一度病院見学にお越しください。（2023年4月、当院呼吸器連動専門研修3年目研修中））

佐藤 怜



東京慈恵会医科大学の内科専門医プログラムに所属し、関連病院の研修として内科専攻医3年目の1年間、国立病院機構東京病院で研修させていただきました。東京病院は呼吸器内科が主体の病院で、他の病院では他科に依頼する手技（気管支動脈塞栓術、胸腔鏡、右心カテーテルなど）を呼吸器内科の医師が行っております。そのため、自分の担当患者が検査を行う際には、実際に手術室や透視室に立ち会って検査を見ることができ、希望すれば実際に先生方に教わりながら手技を行わせていただけるため、非常に貴重な経験をさせていただける環境です。私は年度の途中からですが、右心カテーテル班に参加させていただき、カテーテル検査を行わせていただき、それに加えて肺高血圧症の講演も担当させていただきました。まだまだ未熟ではありますが、非常に素晴らしい経験をさせていただきました。

東京病院は結核や非結核性抗酸菌症、真菌症など、一般病院でなかなか経験のできない症例が多い上、多くの指導医の先生方のアドバイスや、豊富な勉強会などを通じて、多くの専門的な知識を得ることができますので、当院で研修を行いたい方は是非一度足を運んでみてください。

見学のお問合せ

お問合せ窓口

呼吸器内科　川島 正裕

✉ kawashima.masahiro.wr@mail.hosp.go.jp

見学の注意事項

①見学の際は名前、卒業大学と年度、現在の職場、メールアドレス、希望の日付（通常 **水曜日**に見学を行っています。第3希望まで、半日の場合はその旨も）を記載の上、上記メールアドレスまでご連絡ください。

②見学の方が多い時期にはご案内まで時間がかかることがあります。

③土日・祝祭日は見学できません。

④白衣・所属施設のネームカード・聴診器・筆記用具等必要なものをご持参ください。

研修体制

内科指導医数 26名

給　与(参考)※当直手当別途支給

1年次 339,200円／月

2年次 352,000円／月

3年次 364,800円／月

当　直　平均3回／月

宿　舎　あり

保育所　院内あり

病院概要

独立行政法人　国立病院機構
東京病院
National Hospital Organization
Tokyo National Hospital

病院長　松井 弘稔

住　所　〒204-8585
東京都清瀬市竹丘3－1－1

TEL　042-491-2111(代表)

FAX　042-494-2168

URL　https://tokyo-hp.hosp.go.jp/index.html

アクセス：　西武池袋線清瀬駅よりバス5分